

# 会報

平成 20 年(2008).10.10

HP:<http://www3.ocn.ne.jp/~koryu/>

Tel:03-3222-4190 Fax:03-3222-4199

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-3-9 第2太陽ビル301

発行人：生井榮一



儒学礼節学校に体験入学の教育学部参加者

## 第二期安東自由大学“盛会”

### 安東市民の熱烈歓迎に感動！

日韓教育交流の一環として昨年開始された安東自由大学(名誉総長・権重東)の第二期大学は、2008年8月19日から21日まで、韓国安東市で開催された。テーマは「東アジア市民社会のネットワーク」。

協会関係の参加者は、8月17日、成田のホテルで前泊して交流を行った後、釜山に向かった。釜山からは専用バスで約3時間。十分な自己紹介をして、目指す国学振興院に到着した。日本全国や台湾、ロシア、韓国各地から参加者が一堂に集合し夕食をとった後、人間国宝による安東の無形文化財仮面舞グッに参加し、手ほどきを受けた。

第1日目、安東市職員として活躍している日本人緒方恵子さんの安東の人々の「情」についての話や崔観光所長からの安東の食文化についての話で幕を開けた。また昨年同様、安東市長や安東文化院院長をはじめとする方々の歓迎の言葉を受けた。「東アジアの一員としてともに生きていきましょう」との話は、一部懸念された「島」問題による心配を吹き飛ばすものだった。

第1講座は、韓国儒学の最高峰、成均館大学李基東教授の「現代社会と儒学」。大変わかりやすく、「仁」の大切さを教えていただいた。第2講座は、昨年に引き続き荒木重雄先生の話。東洋の英知「儒学」がこれまで果たした役割と現代的意義について、大塩平八郎、横井小楠、田中正造などの例を挙げて話された。いずれも東洋の文化と歴史を再評価している点、近代化においては西洋文明を無批判に迎合しない点などが指摘された。



教育交流分散会で  
(座長は加藤良輔団長)

第3講座は3つの分散会で国際交流が行われた。教育学部は全員教育分科会に参加。韓国出身の文春琴姫路獨協大学教授、ロシアのモスクワ東洋大学コーシキン教授、台湾文化大学の呉慎宜講師、ボランティア通訳で参加した梨花女子大学院のイ・ヤンミンさん。それぞれの日本の教育に対する評価や、国の違い、子どもの現状など、参加者全員が発言し、交流を深めた。

第4講座は、韓国の若手女性映画評論家の朱禧さんの「映画を通して見る韓国文化」の講演。日本留学時の卒業論文に、あえて「ピンク映画」を選択したこと、格好いい所だけじゃだめ、もっと理解しあわなければと語った。夜は韓国人の心情がきめ細かく描かれているという朱禧さん推薦の韓国映画「情」の鑑賞。盛りだくさんな日程の一日が終了した。

## 教育懇談会も活発に

2日目は楽しみにしていた、韓国伝統文化(礼節学校)入門。安東市は韓国精神文化の中心地と呼ばれ、儒学にまつわる文化財が多いだけでなく、地域的に儒学を本当に大切にしている。その一つがこの礼節学校だ。かといって難しいことは何もない。チマチョゴリの着付けに四苦八苦したり、韓国茶道の作法を体験したり、最後はチャンゴ(長鼓)を使っの楽器練習。ここで、私たちは2002年の日韓ワールドカップを思い出す。韓国の応援、テーハミング(大韓民国)の掛け声を習うことになった。だんだん高揚していく構成は、韓国の現代を感じさせるものであった。夜は、現地教員との教育懇談会。韓国5名、通訳3名、それに我々だから、かなり突っ込んだ話ができる。そのうえ、会場到着前、市長招待宴会に顔を出したせいか、舌は滑らかだ。ボランティア通訳の一人は在日でもう一人は日本の小学校経験があり、こうした経験が日韓の交流には大いに役立った。和気藹々、また口角泡を飛ばしての討論、国際交流ではなかなか

かできない稀有の体験を我々は持ち帰った。



第3日目は安東史跡参観。韓国1000ウォン紙幣に描かれている『李退溪』の16代目宗家李根必氏の話聴く。

記念にいただいた色紙には、「幸泉福」とある。親に対する孝がすべての幸福の泉という意味とのこと。閉講式では、全員修了証書を受け取った。

夜、韓国安東高校の同窓会が、大きな豚一頭とマツタケを差し入れてくれた。この日は、精神文化の地にふさわしい両班(ヤンバン)の家に泊まる。特別に手配されたキャンプファイヤーの火で国際交流を実感しながら、翌日、次の訪問地チリ山に向かった。

## ビルマサイクロン災害お見舞い



スーチーさんの写真の前で、左から中嶋ILO理事、マウンビルマ日本事務所事務局長、山中常務理事、塩田連合国際局長

9月10日、山中常務理事はビルマ日本事務所を訪れ、協会に

集まった、中国四川大地震ならびに、ビルマ(ミャンマー)サイクロン災害見舞金カンパから50万円を贈呈しました。マウン事務局長は、ビルマ(ミャンマー)被災地の教育復興に充て、報告と写真を送ると述べました。贈呈には、中嶋ILO理事(前連合国際総合局長)、塩田連合国際局長が同席しました。

## 中国四川大地震に150万円を義捐

また、第14次訪中団(黒田文雄団長)は10月16日から訪れる中国教育国際交流協会に100万円、宋慶齡基金会に50万円を四川大地震見舞金として贈りました。協会の呼びかけた四川大地震とビルマ(ミャンマー)の義援カンパには、山梨県教職員組合からの100万円を始め、全国の会員から多大なカンパが寄せられました。この場を借りて御礼申し上げます。

☆☆ 協 会 ☆ 短 ☆ 信 ☆☆☆

### ●日本語作文コンクール

協会が昨年度から後援している、「日本語作文コンクール」(主催:日中交流研究所、後援:中国大使館ほか)は4回目を迎えます。応募は中国全土から1500名の多きにのぼっています。この中から第一次審査を合格した33編(学生22編、社会人11編)の最終審査委員に山中常務理事が選ばれ、審査に当たっています。協会賞(教育賞)として、学生、社会人各1名に各々5万円相当の商品が贈られます。審査結果は12月に発表されます。

### ●公益法人制度検討に対応して、事務局を強化

公益法人制度改革に適切に対処するため、第2回の公益法人制度改革検討委員会(前嶋徳男座長)が7月26日開催されました。また、改革移行に伴う業務の増加に対応して、協会では以下の各氏に業務補助をお願いしています。公益法人移行業務・吉田一徳、会計業務・山田佳子、事業関係・藤沢初江の各氏。

### ●中国建国59周年を祝賀

9月26日、中国建国59周年、日中友好30周年記念式典が都内で盛大に開催されました。協会からは、生井理事長が出席し、中国大使館教育処をはじめとした方々と友好を深めました。

尊敬する日本中国国際教育交流協会、理事長 生井 榮一様

5月12日、四川省は歴史上稀に見るマグニチュード8.0の大地震に見舞われました。不意に襲った震災は、四川省の経済及び人民の尊い命に、甚大な損失をもたらしました。みなぎ心一つにして震災を克服し、被災者を救済しようという正念場に、貴会は当会に電報をくださりました。被災者となった人々への慰問、命を落とした人々への深い哀悼、そして震災の救援活動の第一線で戦う人民への敬意を表してくださいました。この度の一件は、“どこかに困難があれば、四方八方から応援に来る”という言葉通り国際的友好互助の精神を体現しているものであり、困難に立ち向かい震災に打ち勝つ勇気と自身を奮い立たせてくれました。そして、日本の人々の中国人民に対する深い友情の念を私たちは切に感じています。私たちは貴会からの慰問の手紙を四川省教育庁ホームページに掲載させていただき所存です。

ここに四川省教育国際交流協会の同志は、貴会の手厚き配慮に対し、心よりの感謝と敬意を表明いたします。そして、日中両国の人々の代々続く友好を願ってやみません。

2008年5月29日

四川省教育国際交流協会

## 静岡・愛知でお世話になります

### 歓迎！ 河北省易県教育代表団

11月16日から21日まで易県教育代表団が日本を訪問します。今回は、協会の招待によるもので、一行は李曉峰(中国宋慶齡基金会基金部)団長以下、易県教育局長、易県の青年教師ら5名です。静岡県では小学校とヤマハ楽器(寄贈した電子ピアノの製造元)を訪問、愛知県では小学校他の参観、給食の体験を予定しています。今回の訪問は、会員団体である静岡県教職員組合と愛知県教員組合の全面的な支援をうけています。一行は秋の京都を参観した後、東京に戻り帰国します。

訪日に先立ち、第14次訪中団(10月12日~18日)が易県を訪問しますが、今回訪日する5名はいずれも易県での教育懇談会に出席したメンバーです。

11月16日(日) 来日 協会歓迎会

17日(月) 静岡訪問(浜松市立東学校訪問、ヤマハ視察)

18日(火) 愛知訪問(名古屋市立西築地小学校訪問)

19日(水) 京都視察

20日(木) 大阪→東京

21日(金) 帰国

訪日代表団氏名(敬称略)

李曉峰 男(中国宋慶齡基金会基金部項目処処長)

张国崇 男(河北省易県文教局局長)

段昆山 男(河北省易県第一小学校国語教師)

呂金凤 女(河北省易県第三小学校国語教師)

刘 颖 女(中国宋慶齡基金会連絡部)

ホームページをご覧ください

<http://www3.ocn.ne.jp/~koryu/>